

I モーセの両親の信仰。：23。

1. モーセがエジプトで生まれた時、エジプトの王は、増加するイスラエル人を恐れ、新しく生まれてくる男の子は皆、殺してしまえと命令を発した(出1：8-22)。これは、古代のその命令の中でも残酷なもの。
2. しかし、モーセの両親は、信仰によって神を恐れ、王の命令を恐れず、三ヶ月の間、モーセを隠しておいた。この両親の命がけの勇氣ある信仰がなかったら、モーセは殺され、あの偉大な働きは、なされなかった。
3. 私達も、小さな命を守ってあげたい。たとえどんな事情があっても胎内に宿った命は、神の業であり、その子には神のご計画がある。

この世に、人として無意味に命が与えられた人はいない。皆、神の深い計画があり、価値がある。たとい、王や国や親族が小さな命を絶つ事を命じても、それに従ってはならない。人の命は、尊い人格ある神からの命。国や人々の命令と神の命令がぶつかる時、正しい神の命令に従おう。神は祝福される。与えられた子供達を祈りつつ育てたい。一人一人は、神から預けられている人格。

II モーセの信仰。：24-27

1. 「信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、」：24→

①モーセは、エジプトの王の娘に赤子の時、見つけられ、この王女の息子になった(出2：1-10)。
これも神の不思議なわざ。

大人になった時、モーセは「同胞たちのところへ出て行き、その苦役を見た」(出2：11)。

「モーセが四十歳になったとき、自分の同胞であるイスラエルの子らを顧みる思いが、その心に起こりました」(使徒7：23)。

モーセはエジプトで大切に育てられたが、自分は、本当はイスラエル人と気づいた事だろう。

彼は、支配国エジプトか奴隷のイスラエルか、世の財・地位か神のしもべか、選択を迫られた。

自ら「はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました」

ヘブル11：25。

「エジプトの王の娘の子」とは、社会的な名誉、地位、王家の財宝、あらゆる快樂を手にするものだった。それを「拒んだ」。それは、世的な考え、価値観からすれば、愚かな行為である。

しかし、その決断は、真の神への「信仰による」ものであり、神の目に尊いものだった。

②私達も、しばしば人生の岐路に立たされた時、世俗的な決断、選択ではなく、神への信仰、神に祈る意味ある責任ある決断、選択ができるように祈りたい。

③信仰生活とは、拒むべきものを拒み、罪を捨て、神の喜ばれるものを選び取る生活である。

2. 「はかない(一時的、長続きしない、三日坊主の、移り気な)罪の楽しみにふけるよりも」：25。

①聖書は、罪も「楽しみ」を与えると言う。

しかし、その楽しみは、はかない。正にそうである。

すべての人間は、楽しみを求めて生きている。それには良い楽しみ(神が下さる楽しみ。Iテモテ6：17)と悪い楽しみ(神が嫌われる罪が与えるもの)とがある。罪、悪による楽しみは、はかなく、決して長続きしない。そして後で、必ず、空しさと後悔と依存、中毒、後悔がやって来る。人は、その悪に縛られ、奴隷となる。「罪を行っている者はみな、罪の奴隷です」ヨハネ8：34。

※もし私が主を信じていなかったら、私は罪の奴隷になっていたと自覚する。主への感謝が絶えない。

罪、悪の楽しみは最後には私達を墮落させ、裏切る。モーセは信仰(神が判断力を下さる)によって、エジプトの王の娘の子として生きる事のはかなさを見抜いた。

②「むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました」：25。

あえて苦しむ道を選び取る事は大変な事。私達も信仰と神の愛が無い時は、なるべく苦しみや犠牲の多い

道を避け、安定と楽を選び取る。

しかし、そのような私達も、モーセと同じように、神の恵みにより愛と信仰が与えられ、神と神の民と共に苦しむ道を選ぶ事が可能となる。使徒5：41、コロサイ1：24

3. 「彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました」：26。

①これは信仰による判断。パウロも同じことを告白している。

「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とっています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています」

ピリピ3：8。

：25の「神の民とともに苦しむ」という事は、「主に従う故に受けるそしりを民と共に受ける」という事。私達も、主を信じ従う故に、そしられたり、苦しみが増したりする。

しかし、失望してはならない。それは、私達を愛して下さった主が通って下さった道。

②「それは、与えられる報い（真の救い、神の祝福）から目を離さなかったからでした」：26。

「目を離さなかった」=原語：「他のすべての物から目を離して、一つの物を見る」の意。

私達も、世からの報いのみを得ようとしてはならない。たとい、人の目に報われなくても、

神の地上での報い（「人は種を蒔けば、刈り取りもする」ガラテヤ6：7。悪へのさばきか？神への従順への祝福か、神を近く感じる幸いか？）、

天での報い（天国での神の祝福）は、確実にある。

神は、私達の神への従順、人々への愛を決して忘れられない。

「神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてくださりません」へブル6：10。

この神から目を離さないようにしたい。主は報いて下さる。

「私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです」Ⅱコリント5：10。

4. 「信仰によって、彼は王の憤りを恐れることなくエジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、忍び通したのです」：27。

ここにも、信仰の秘訣が記してある。

「目に見えない方をみているように、忍び通した」。

神は目に見えないお方。しかし、信仰の目で、神が生きて働かれているのが分かる。

彼は、エジプトからも、イスラエルからも、自分の兄弟からも迫害、ののしり、つぶやきを受けた。とうてい耐えられないような経験をした。

イエス様もパウロも同じ。

モーセは耐えた。

目に見える人間や力に頼らず、目に見えない方、神としっかり祈りの親しい交わりをしていたから。

神は、いつも彼と共におられた。

私達も、辛い時、①みことばを読み、信仰の目で神を見よう！

②色々な出来事（偶然、無意味な事は起きない。神は、悔い改めに導き、神との幸いな交わりを回復して下さる）、試練の中で、その中におられる神を信仰の目で見よう！

神はすべてを支配し、益（最善）として下さる！あなたと、いつも共にいて下さる。